

第70回卒業式



春らしい、暖かい日差しの中を元気な笑顔で卒業生が登校してきました。

「卒業生入場」の合図とともに「威風堂々」の曲が流れる中、舞台から一人一人胸を張って入場しました。

続いて卒業証書授与では、一人一人「夢の実現に向けてがんばります」「学習と部活動を両立します」など、将来の夢や中学校での抱負を言ってから卒業証書を堂々と受け取りました。受け取った卒業証書をお母さんやお父さんに感謝の言葉を添えながら渡しました。



『お祝いの言葉、お別れの言葉』では、卒業生が入学式からの小学校生活6年間の思い出、在校生へのバトンタッチ、これまでの感謝の気持ち、そして未来への決意を、合唱を交えながら伝えました。それに対して、在校生が、お祝いの言葉や合唱で応えました。どちらも、気持ちのこもった言葉や合唱で、感動が広がりました。



『卒業生退場』では、在校生が「明日へつなぐもの」の曲を合唱する中、6年間の思いを胸に花道を歩いていきました。



式が終了してから最後の学級活動を行い、慣れ親しんだ教室に別れを告げました。門出は、春の明るい光を浴びながら、在校生が作る花のアーチの中を、保護者、来賓、職員に祝福されながら巣立っていきました。その表情には、「中学校でがんばるぞ!」という決意が表れていました。

式 辞

うらかな春の日差しを浴びて、桜のつぼみも日ごとにふくらんでまいりました。この晴れやかな日に、十四山東部小学校 第七〇回卒業生として、巣立っていく三三名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いをいたします。



さて、卒業生のみなさん、小学校生活をふり返って何を思い出さずしょう。難しい問題に悩みながら学習した教科。協力して練習に取り組み、や

りとげた運動会や学芸会などの行事。「えがお いっぱい」「くふう いっぱい」「ちから いっぱい」の合い言葉で小学校生活六年間がんばりました。そんなみなさんの取り組む様子からは、『パワフル』という言葉が浮かんできます。運動会の応援合戦、ふれあい班の行事など、いろいろな活動への取り組みは、本当にパワーあふれたものでした。こうしていつもパワフルに学校全体を引っ張ってくれるので、全校が一つとなって進んでいくことができました。これからも、それぞれの夢に向けて、パワー全開で進んでいってください。

最後に、みなさんの晴れの門出にあたって、次の言葉をはなむけにします。それは、『成功するのに最も確実な方法は、常にもう一回だけ試してみるのだ』というものです。これは、誰もが知っている発明王、トーマス・エジソンの言葉です。彼は、この『もう一回試す』を一万回繰り返し、電球を発明したということです。みなさんがこれから進む中学校の生活は、きつとうまくいかないことばかりだと思います。しかし、そこで『もう一回試す』を繰り返すことで、きつとすばらしい結果につながります。この「あきらめない心」で、実り多い中学校生活にしていってください。

みなさんが、十四山東部小学校で学んだことを誇りにして、勇気を持って一步ずつ前へ進んでいってくれることを期待しています。みなさんの未来に幸多かれと、心から祈りながら式辞といたします。

『いってらっしゃい！』

